

事務事業評価表 平成24年度

政策 豊かさ創造性を育む生涯学習環境の充実

施策 青少年健全育成の推進

基本事業 心のケアの充実

事業名 **悩みを抱える児童生徒への支援事業 (光交付金)**

[0982]

部名	教育部	事業開始年度	平成23年度	実施計画事業認定	非対象
課名	学校教育支援室	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	<p>(誰、何に対して事業を行うのか)</p> <p>悩みを抱える児童生徒、保護者、教育関係者</p>
意図	<p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)</p> <p>学校生活を中心として悩みを抱える児童生徒、保護者、教職員関係者の悩みを軽減する 心の教室相談員や教育関係者、保護者等の相談能力向上と指導力向上等を図る</p>
手段	<p>(事務事業の内容、やり方、手段)</p> <p>・不登校児童生徒の在籍率の高い学校等にスクールカウンセラーを重点配置する ・心の教室相談員や教育関係者、保護者を対象として、研修会を開催する</p>

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度当初
対象指標1	小中学校児童生徒数	人			10,042	9,776
対象指標2						
活動指標1	重点配置校相談時間数	時間			316	256
活動指標2	研修会開催数	回			5	3
成果指標1	重点配置校延べ相談件数	件			224	130
成果指標2	研修会参加者数	人			122	100
単位コスト指標						
事業費計 (A)		千円	0	0	2,184	2,578
正職員人件費 (B)		千円	0	0	803	809
総事業費 (A) + (B)		千円	0	0	2,987	3,387

費用内訳	
23年度	報酬 1,182千円、報償費 550千円、旅費 158千円、需用費 224千円、負担金 補助及び交付金 70千円

## 事業を取り巻く環境変化

事業開始背景		事業を取り巻く環境変化	
--------	--	-------------	--

## 23年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

義務的事務事業

妥当である

妥当性が低い

理由・  
根拠は？

悩みを抱える児童生徒等への教育相談体制は、スクールカウンセラーや心の教室相談員により支援されているが、よきめ細かな相談体制の充実と体制強化を図るため、国の地域活性化交付金を活用し実施する。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

貢献度大きい

貢献度ふつう

貢献度小さい

基礎的事務事業

理由・  
根拠は？

上位の基本事業への貢献度が大きいスクールカウンセラー事業と心の教室相談事業の制度充実のための事業である。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか？

あがっている

どちらかといえばあがっている

あがらない

理由・  
根拠は？

国の地域活性化交付金を活用することで、スクールカウンセラー事業及び心の教室相談事業のより一層の充実が図られた。

(4)成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地 大

成果向上余地 中

成果向上余地 小・なし

理由・  
根拠は？

心の教室相談員及びスクールカウンセラーの配置時間数の増加による相談体制の拡充

(5)現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）

ある

ない

理由・  
根拠は？

相談体制を拡充するためには、心の教室相談員及びスクールカウンセラーの配置が必要である。